

肩こり、口内炎、下痢に

[救心漢方]

かつこん おうれん おうごん とう

葛根黄連黄芩湯エキス顆粒

[救心漢方] 葛根黄連黄芩湯エキス顆粒は、漢方医学の原典『傷寒論』しょうかんろんに記載されている「葛根黄連黄芩湯」をのみやすいエキス顆粒としたものです。

漢方では、悪寒お かん(さむけ)がしたり、項背こうはい(首筋から背にかけて)がこわばるなど、病状が体表部に現れている場合を「表証」といい、また、炎症が体の深部に達して腹痛がしたり、下痢をしているような状態を「裏証」と呼んで、診断の指標の一つとしています。

葛根黄連黄芩湯は、「裏証」に「表証」を伴ったものを使用目標とする薬方ですが、「表証」や「裏証」のみの場合にも用いられ、肩こり、口内炎、下痢をはじめ、急性胃腸炎や舌炎などに広く応用されます。

◆[救心漢方] 葛根黄連黄芩湯エキス顆粒は、次のような症状を目標として使用すると、すぐれた効きめを発揮します。

- ◇首すじから背中がこわばって、肩がこる
- ◇胃腸の調子が悪く、口内炎・舌炎がしやすい
- ◇熱があって、下痢をする
- ◇みぞおちがつかえて、腹痛や嘔吐などがある
- ◇汗が出て、ゼーゼーして眠れない

⚠ 使用上の注意

⊗ してはいけないこと

【守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる】
次の人は服用しないこと
生後3カ月未満の乳児



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師または登録販売者に相談すること
 - (1) 医師の治療を受けている人
 - (2) 妊婦または妊娠していると思われる人
 - (3) 高齢者
 - (4) 次の症状のある人
むくみ
 - (5) 次の診断を受けた人
高血圧、心臓病、腎臓病
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この説明書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること
まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること

症状の名称	症 状
偽アルドステロン症、 ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。

3. 1週間位(急性胃腸炎に服用する場合には5~6回)服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この説明書を持って医師、薬剤師または登録販売者に相談すること
4. 長期連用する場合には、医師、薬剤師または登録販売者に相談すること

効能

体力中等度のもの次の諸症：下痢、急性胃腸炎、口内炎、舌炎、肩こり、不眠

用法・用量

食前または食間に水またはお湯で服用すること

年齢	1回量	服用回数
大人（15才以上）	1包	1日3回
7～14才	$\frac{2}{3}$ 包	
4～6才	$\frac{1}{2}$ 包	
2～3才	$\frac{1}{3}$ 包	
2才未満	$\frac{1}{4}$ 包	

食間とは…
食後2～3時間
を指します。

- (1) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること
- (2) 1才未満の乳児には、医師の診療を受けさせることを優先し、やむを得ない場合にのみ服用させること

成分

[救心漢方] 葛根黄連黄芩湯エキス顆粒は、黄色の顆粒で、3包(1包2g)中、下記生薬の抽出乾燥エキス(葛根黄連黄芩湯乾燥エキス)1,800mgを含有します。

[カッコン……………6.0g、オウレン……………3.0g]
[オウゴン……………3.0g、カンゾウ……………2.0g]

添加物として乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルスターチを含有します。

保管および取扱い上の注意

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること
- (2) 小児の手の届かない所に保管すること
- (3) 他の容器に入れ替えないこと(誤用の原因になったり品質が変わる。)
- (4) 1包を分割した残りを服用する場合には、袋の口を折り返して保管し、2日以内に服用すること
- (5) 使用期限を過ぎた製品は服用しないこと

製品についてのお問い合わせは、お買い求めのお店、または下記にお願いいたします。

救心製薬株式会社 お客様相談室

電話：03-5385-3211(代表)

受付時間：9:00～17:00(土、日、祝日、弊社休業日を除く)



救心製薬株式会社
東京都杉並区和田1-21-7